

勝山進博士の定年退職記念特集の 発刊にあたって

日本大学商学部長 小関 勇

勝山進先生は、昭和43年4月に本学の副手に採用されて以来、助手（昭和45年12月～昭和48年3月）、専任講師（昭和48年4月～昭和51年3月）、助教授（昭和51年4月～昭和56年3月）、教授（昭和56年4月～平成25年11月）として45年8か月の長期にわたり、本学の専任教員として勤続されました。その間、先生は、研究教育分野における優れたご業績以外に、平成15年～平成23年商学部長・同研究科長・日本大学理事、平成18年日本大学副総長（研究担当）、平成21年日本大学副総長（総長代理代行・学務担当）といった行政分野の要職も歴任され、本学発展に多大なご貢献をなされてこられました。

勝山先生のご経歴につきましては、昭和18年に新潟県でお生まれになり、地元の商業高等学校を卒業後、民間企業に就職されましたが、先生の旺盛な向学心および職場上司からの強いお薦めもあり、昭和39年に日本大学商学部会計学科に入学されました。昭和43年4月に日本大学大学院商学研究科会計学専攻修士課程に入学、昭和45年3月に同修士課程を修了されました。引き続き、同年4月日本大学大学院商学研究科会計学専攻博士課程に入学され、昭和48年3月に同博士課程を単位取得退学されました。

勝山先生は、日本会計研究学会、会計理論学会、日本社会関連学会といったわが国学会以外に、American Accounting Association, Academy of Accounting Historians, International Association for Accounting Education & Researchといった海外の学会に所属され、活躍されておられます。先生の研究は、大きく二つに時代区分することができます。第一期は、第2次世界大戦後のインフレーションによる資産再評価問題から、1970年代の為替レートの変動に起因する為替変動会計とオイル・ショックに起因する物価変動会計を研究対象とされた時期であり、かかる研究成果の集大成として、1994年7月に「物価変動会計の研究」により、日本大学から博士（商学）の学位を授与されております。

その後の第二期においては、先生の研究対象が、環境問題に係る環境会計と企業の社会的責任に係るCSR会計へと移行してきた時代であります。かかる研究分野における一連の研究は、社会関連会計の研究の一環を形成するものであり、現在、この分野における代表的な研究者の一人として、日本社会関連学会の会長職を務められておられます。

上記のように、先生は、研究、教育、学会活動、社会貢献に加え、商学部のみならず大学の運営についても顕著な業績をあげてこられました。

勝山先生におかれましては、これからも商学部・大学に対して大所高所からのご意見やご提言をいただければ誠に幸甚に存じます。先生の今後ますますのご健勝とご活躍を祈念申し上げ、巻頭の言葉とさせていただきます。

